

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	国民的取組のための基盤づくり
手法名	宇都宮大学 里山科学センター:里山の研究を地域に還元するプロジェクト
主体	宇都宮大学
背景 (地域の課題)	里地里山の経済的価値の低下と、第一次産業の低迷による過疎高齢化の進展、それに伴う、生物多様性や国土保全・文化の継承等の里地里山の多面的機能の低下は、栃木県内の多くの農山村でも起こっている。 宇都宮大学は、農林学校を前身とする県の最高学府として、里地里山に関する科学的な学術研究を深め、地域に還元する試みを始めた。
手法/方策の詳細	宇都宮大学では、里山の生態系や伝統知識を「里山科学」として科学的に再評価し、地域に還元することを目的に2009年「里山科学センター」を設立。里山の生態系評価と生物多様性機構の解明、鳥獣害対策の推進、コミュニティー・ビジネスによる地域活性化、伝統知識の構造化と継承、里山科学に関する教育研究・地域貢献活動等に、学内連携で取り組むこととしている。 科学的調査を行う一方で、地域に直接的に関与し、地域づくりと人づくりに貢献出来るよう、国連高等研究所、行政機関、森林組合や農業生産法人等の事業体、企業、地域住民等と連携し、以下の取組を行っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・里山の生態系評価と生物多様性機構の解明 国連ミレニアム生態系評価「日本における里山里海サブ・グローバル評価」への参画 生物多様性条約第10回締約国会議への協力 (那珂川流域の生態系評価では現地フィールドを儲け、学生と地域住民がともに研究・活動中) ・里山の鳥獣害対策の推進 栃木県・市町村と連携した地域の鳥獣害対策を担う人材「地域鳥獣管理士」の養成 (科学技術振興調整費「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム」) ・里山コミュニティー・ビジネスによる地域活性化 里山の営みを経済的にも持続可能なシステムに再構築する方策 コミュニティー・ビジネスを担う人材の育成と社会実験 ・里山の伝統知識の構造化と継承 里山の恵みを支えてきた伝統的知識の掘り起こしとデータベースの構築 ・里山における地域貢献活動 県内自治体などによる生物資源を活用した低炭素社会構築への協力 ・地域活性化協議会などを通じた地域活性化への協力 「里山教科書」作成などを通じた初等中等教育支援
手法・技術的視点	地域に貢献しうる研究を行うため、行政や地域社会等、農協等との事業団体との連携し、教育研究拠点を設け、また、森林・農地から社会学系の問題までの分野同断の研究プロジェクト創設により、地域貢献に結びつく取組を行っている。



参考資料	里なび研修会in栃木 宇都宮大学特任准教授 高橋俊守
------	----------------------------